

# 2026 ズバリ! 的中



# 世界史

## 北海道大学

### フェニキア人の文字文化について説明する 論述問題がズバリ的中

#### 入試問題

前期日程 総合入試(文系)、学部入試(文)  
大問2 問2(イ)

2 次の文章を読み、問いに答えなさい。

オスマン朝は13世紀末にアナトリア(小アジア)の西北で勃興し、アナトリアと A 半島を中心に、ヨーロッパ・中東・アフリカにまたがる大帝国内へと拡大した。

オスマン朝が地中海進出の足掛かりを得たのは、1453年にビザンツ帝国の首都であった B を征服したことによる。当時のオスマン朝君主が「二つの海のスルタン」と自称したように、 B は黒海と地中海の結節点に位置しており、このためオスマン朝は二つの海をつなぐ海上交通の支配が可能になった。

次いで、 C の治世下の1517年にマムルーク朝を滅ぼすと、オスマン朝の支配領域は東地中海方面に大きく拡大する。それまでマムルーク朝の領土であったエジプトやシリアが新たにオスマン領に編入された。エジプトやシリアは東西交易ルート上に位置する重要な地域であり続け、オスマン朝下においても同様であった。また、スレイマン1世は帝国の東西で勢力圏の拡大をおこなった。

1571年に D でオスマン朝はスペインやヴェネツィアなどの連合国軍に敗北するも、1574年に北アフリカの一部をスペインから奪い、しばらくの小康期間を経て1669年には地中海航路の要衝であったクレタ島を征服した。これをもってオスマン朝は最大版図を実現した。

問2 下線部(1)について、(ア)フェニキア人の貿易の拠点である地中海東岸の都市を一つ選んで答えなさい。また(イ)古代地中海世界においてフェニキア人が果たした文化的役割を説明しなさい。

#### 河合塾

大学受験科 基礎シリーズ  
世界史演習編 [テーマ・演習問題]第1・2講  
[2]問3①

[2] 小アジアの歴史

次のA、Bの文章を読んで、下の問いに答えよ。

A. 小アジアはオリエント・地中海周辺の歴史の中で常に重要な位置を占めてきた。前18世紀以降、小アジアに強大な国家を築いたインド・ヨーロッパ語族に属する (1) は、前16世紀には、メソポタミアに侵入して、バビロン第一王朝(古バビロニア王国)を倒した。また (2) ともシリア地方をめぐる争い、前1286年頃、シリアのカデシュで両軍が戦った。

他方、小アジア西部にはミケーネ文明の影響も及んだ。(c)ホメロスの叙事詩にその攻囲戦がうたわれ、シュリーマンによって発掘された (3) も小アジアの都市である。

ポリス形成期に入ると、小アジア西部のエーゲ海沿岸には、ギリシア人の植民市が数多く成立した。後の(4)ペルシア戦争の発端もこの地域に関連している。小アジア出身のギリシア人はギリシア文化史の中で大きな役割を果たした。万物の根源は水であると唱えて (4) 哲学の始祖となった (5) や、ペルシア戦争の歴史を著した「歴史の父」(6) も、小アジアの出身である。

問3 ① 下線部(b)に関して、シリアではこの後、フェニキア人とアラム人の活動が活発化するが、フェニキア人とアラム人の文字文化について90字以内で簡潔に述べよ。

高3 スタート学期 世界史論述  
第1講

◆入試問題出題例◆

フェニキア人とアラム人の文字文化について90字程度で簡潔に説明せよ。(2010 新潟大学)

解答例

フェニキア人は取引内容を記録するため、実用的な表音文字をつくった。このフェニキア文字に影響を受けたアラム人がアラム文字をつくり、アラム文字は東方に伝わってソグド文字などの原形となった。